



ML-8000



RIV NOBUHIKO
リバー・ジャン様(写真左) 小浜 伸彦様(写真右)

Monna Lisa × RIV NOBUHIKO コラボレーション企画

デジタルプリントを採用したテキスタイルで展開する クチュールの新たな世界観

RIV NOBUHIKO (リブ ノブヒコ) は、日本人の小浜伸彦様と韓国人のリバー・ジャン様のデュオデザイナーが2021年に立ち上げたウィメンズブランド。ワイルドとラグジュアリー、実用性とクチュールを掛け合わせた“Wild luxury: practical couture”のコンセプトを掲げた洋服づくりを展開している。

二人はロンドンのファッション名門校のセントラル・セント・マーチンズで学び、その後小浜様はディオールで、リバー様はセリーヌなどのメゾンブランドで研鑽を積む。その経験を経て「クチュールの手仕事で手間暇かけた仕立て」を大事にしつつ、クチュールの観念や技法を身近な品や既製品に落とし込むという新たな価値観を創出し、「日常にありふれているようなラグジュアリークチュール」や「自分が着たい服」を表現している。

RIV NOBUHIKOでは「人が人のために作るうとしている姿勢」がブランドの指針の一つにあり、そこには手で動かす作業を大事にした洋服づくりに見られる「手のぬくもり」や「人間ならではのエラー感」も味わいと捉えることもある。ブランドを支える縫い子さん達をはじめ、「動かす人も大切にしたい」という思いも強い。その根底にあるのは人間愛にあふれているようなものづくりの背景

で、特に大切にしてきたという。そんなRIV NOBUHIKOが今回、Monna Lisaのデジタルプリント技術によるテキスタイルを用いた洋服づくりという新たな試みに挑戦する。デジタル捺染機Monna Lisaによるデザイン設計や使用感、デジタルプリントを活用した今後の洋服づくりの展望などについて小浜伸彦様とリバー・ジャン様にお話を伺った。



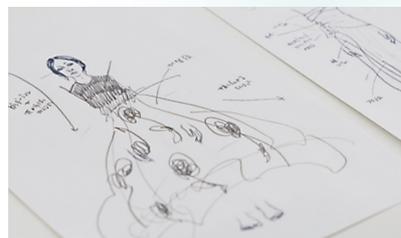
— Monna Lisaとの出会い ~ 製作に至る経緯 ~



Monna Lisaの存在を知ったのは、エプソンのデジタル捺染機体験会のバスツアーに参加したことがきっかけに。そこで機械への認識が大きく変わったという。「参加する前は『機械だからすごい』という感覚だったのですが、人間に置き換えるともものすごくいいに仕事を頑張る、節水も頑張る、優しい職人さんみたいな感覚で捉えることができました」と小浜様は語る。

これまでRIV NOBUHIKOでは、テキスタイルにプリントをする際は可能な限り人の手で作ったものをスキャンしたり、写真で撮影したものをプリントしたりする方法を取ってきた。そこで重視してきたのは元の素材が持っている“言葉にできないような空気感”を出せるような工夫を図ること。そのためにデータ上だけでなく、紙などにプリントアウトをしてみて実際にどのような見え方になるかのチェックを行うなど、手間暇をかけて再現してきた。

バスツアーを経て、小浜様はMonna Lisaにしかできないことを表現したいと思ったことや、Monna Lisaは人の手が加わったものを再現することが上手なのだろうと感じ、その二つの側面の良い部分を生かしたいと考えたという。「人の感覚で、絵を描くような目に見えないところも再現できるんじゃないか?と考えるとそんな風に使えたらいいなと思いました」とMonna Lisaでの製作に至る経緯を語ってくれた。



ハンドワーク×デジタル技術の融合がもたらす 新たに広がるクリエイティブの世界



— デジタル技術を用いた新たな世界観への挑戦

～プリントのデザイン設計～

今回のコレクションでは、ドレス2着、シャツ、スカートの計4着にデジタルプリントを採用。うちショーピース用に製作されたインパクトのある花柄のドレスは、新機能であるカメラユニットが搭載されたプリンター^(※)でプリントした生地での製作を試みた。デザイン設計にあたってまずは見本サンプルを見ながらイメージを実現させていくことに。「Monna Lisaができることから僕らがやれることを考え、それをまた先方(エブソン)に投げて、という形で密にやり取りを進めていきました。今回のプリントですごくいいと思ったのは、ジャカード生地の狙ったところに色をつけていくという部分です。Monna Lisaを使うことで、デジタルならではの技術で再現されたと感じています」と小浜様。初の試みにあたり、苦労した点について伺うと、「ほとんどは想像通りのものがプリントされて出てくるのですが、今回採用した生地自体の色の影響もあり、出来上がったプリント生地の色が見え方が最初に考えていたイメージとは少し違ったので、そこから変えて今のデザインになりました。やっぴいきながら機械が上手なことを僕らがちょっとずつわかってきた、みたいな感覚で、そういうやりとりも楽しかったです」と小浜様は語る。完成したプリントでは、色の再現度や、「狙って打つ」ところを存分に生かすことができました。また、良い作り手とは安定性の高いクオリティも信頼の一つだが、この技術はその面でも安定しており、RIV NOBUHIKOが大切にしている縫い子さん達と同様の信頼感を置いて製作を進めることができたという。↓

— 2人のアイデアが形に

～製作を経て～



今回のコレクションではデジタル捺染で4着を製作(写真は抜粋)

生地のプリントから2カ月後、都内のショールームでRIV NOBUHIKOの新作の展示会が催された。今回のコレクションでは、リバー様が少女のころに見た母親の『強くたくましい自立した女性の姿』を大人になって振り返った時に『その時の母親が本当はそこまで強くなく、少女のような繊細さを持ちながら大人の世界を生きていたのでは?』という思いから、強さと繊細さの二面性を表現した。また、そのように生きる女性を応援するメッセージも作品に込められている。「ショーピース用のドレスでは、新しいテクノロジーをどうすれば効果的に魅せられるかを考えました」とリバー様。ジャカードの生地で作成したのは、グラデーションとタイルのような着彩を施したドレス。ジャカードの花と同じ場所だけではなく、全体を見た時にジャカードの花の上に大きな花が見えるようにプリントを施し、深さや奥行きを表現している。顔料インクによる黒のプリントはグラデーションを魅せるために試行錯誤を重ね、特にこだわって仕上げた部分だ。↗

これ以外にも、デジタル捺染機でプリントした生地を用いてドレス、シャツ、スカートを製作。どの作品もそれぞれ花をフォーカスさせるポイントを変えてデザインされているが、そのためにも黒のプリントが大事な役割を果たしている。「黒を別の生地にしてしまうと微妙にトーンが違ってしまい、花以外のところに目が行ってしまう。そこで白地のプリント用生地に対し、黒を背景とした花の絵をプリントしたのですが、黒がすごくきれいにしたのは嬉しかったです」と小浜様。作品には刺繍や黒のフラワーのパッチをあしらうなど、プリントを使いながらさらに手仕事によるモチーフを取り入れることで、一歩先を行くクリエイティブとして作品を引き立てている。訪れたバイヤーの方に感想を伺うと、本当にプリントなのかという驚きと、グラデーションやモチーフの花の柄が浮かび上がるデザインや色味、発色に迫力を感じたという声も挙がった。今回、Monna Lisaで手刷りや手描きのような「タッチの違い」といった微妙な表現ができたことや、見た目との違和感がなく、繊細な部分まで色味が再現できたという点が製作に大きく寄与した。その再現性は通常では多くの工程と回数を要する色合わせの時間短縮や生地のロス削減にも繋がっている。



デジタル捺染によるプリント生地で作られた服

— 次に描く世界と表現

～Monna Lisaと生み出す新たなクリエイティブ～

製作を経て、これからMonna Lisaで作ってみたい作品や、Monna Lisaが今後のクリエイティブに与える影響について伺った。「色々なジャカード生地でその上に刺繍のような違うモチーフをプリントしてみるなど、今回のシリーズをさらにディベロップしてスカートやドレスといった、皆が毎日着れるような服でアプローチしてみたいです。Monna Lisaがあればプリントだけ、刺繍だけのものよりもレイヤーペインティングのように服に深みやストーリーが入って、より多くの人に繋がっていく服ができると思います」とリバー様。小浜様は「Monna Lisaの正確なところ、デリケートなところと僕らのハンドワークのような繊細な部分をうまく掛け合わせると面白いのができたらと思います」と話す。ハンドワークだけではコストや時間の問題に捉われてしまう場合もあるが、そのようなリアルティの部分もデジタルが損なわずに引き上げてくれる。さらにはこれらのリスクが減る分、新しいオリジナル生地の企画など、デザイナーのアイデアをMonna Lisaが解決することで、新たなクリエイティブの可能性を感じているという。翌月にはRIV NOBUHIKOにとって初めてのファッションショーが開催される。「エブソンさんをはじめ本当に多くの方が一緒に作ってくれたので、頑張って皆さんが喜べるコレクションにしたいと思っています」と意気込みを語ってくれた。

(※) 海外で先行発売中。メディアの凹凸や模様を読み取る専用のカメラユニットを搭載したパターンマッチプリンティングに対応。ジャカード生地や刺繍が施された生地の織にデザインを合わせたプリントや、正確に位置を合わせた両面プリントが可能。

エブソン デジタル捺染機 Monna Lisa に関するお問い合わせ

デジタル捺染機の情報はこちら

monna-lisa.jp

製品のお求め、ご相談はデジタル捺染機専用のお問い合わせフォームよりお願いします。

epson.jp/monnalisa/contact/



導入ご検討のお客様向けの導入事例閲覧サイトはこちら

<https://www.epson.jp/products/textile/casestudy/>

